

研究所だより I

■ 令和元年度出版助成事業 書籍紹介

板橋 衛 著

『果樹産地の再編と農協』

北海道地域農業研究所学術叢書 ②①

筑波書房発行・定価（本体二〇〇〇円＋税）



本書は著者が二〇〇八年に愛媛大学に赴任して以降、主に研究対象としてきたミカン産地と農協に関する論文を取りまとめたものである。ミカンを中心とした専門農協の事業方式の特徴を整理したうえで、その経営危機と総合農協の合併の進行による両者の「融合」、市郡域の「新総合農協」（太田原高昭）への発展の意義が本書の柱となっている。

第1編「果樹産地再編」（1〜4章）では、現在政策的に進められている農協改革の方向が「営農経済事業専門農協化」に

あるとし、現実には方向は逆であって専門農協と総合農協が合併する形で再編が行われたことを愛媛県の果樹産地に即して整理している。そこでは専門農協化が収支構造的に見ても現実性を持たないことを強調している。

第2編「愛媛県における果樹産地再編の諸形態」では、専門農協と総合農協の合併の事例を扱っている。宇和青果農協など二専門農協と七総合農協で設立されたえひめ南農協（5章）、東宇和農協（三農協合併）に統合された明浜共選（6章）、西宇和青果農協と一四の総合農協が合併した西宇和農協（7章）、旧温泉青果農協など三専門農協と九総合農協が合併したえひめ中央農協（8章）、一四の総合農協の合併と専門農協連からの事業譲渡により設立された越智今治農協（9章）である。専門農協（連）は市郡を単位とし、出荷組合（小印）を下部組織としてもっており、これが町村単位のいくつかの総合農協と合併するという複雑な過程を経ている。ミカン産地の縮小の中で合併が進められたのであるが、そのなかでの共販・選果組織の再編の動きもまた複雑ではあるが興味深い。

終章では、以上を総括して、果樹産地再編の構図を再整理したのち、「新専門農協」の事業と経営の特徴が示され、さらに地域（農業と社会）における役割が付け加えられている。

北海道大学大学院農学研究院 教授 近藤 巧